



### 東京都町村ポッチャ大会

パラリンピックを契機として、2019年度から多摩地域26市3町が連携してポッチャ大会を開催しています。市では(NPO法人)調和SHC倶楽部やスポーツ推進委員会と連携したポッチャ交流会を予選会と位置づけ、障害の有無に関わらず多くの方がポッチャを楽しみます。



### 障害者スポーツ体験会

(一社)日本車いすバスケットボール連盟などの各競技団体と連携して、プレーを見るだけでなく、競技を体験してもらうことで、障害者スポーツの難しさや面白さを体験し、より身近に感じることを目的として実施しています。

### FC東京と連携したPR動画の作成

動画内ではFC東京の共生社会の実現に向けた取組や想いをFC東京の石川クラブコミュニケーターにお話いただきました。

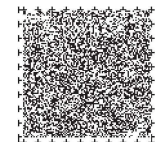


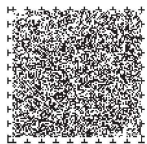
動画はこちらからご覧いただけます。



### FC東京あおぞらサッカースクール・交流会

FC東京と連携し、主に知的・発達障害のある方を対象に定期的なサッカースクールを開催しているほか、他のチームとの交流会を開催しています。





### パラアート展

2017年度から調布市福祉作業所等連絡会と共催で、各作業所等で活動されている方々のアート作品を展示する「パラアート展」を開催しています。一生懸命に、そして何より楽しみながら制作された個性豊かなアート作品が並びます。



### 調布・巡る・アートプロジェクト

(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団と連携し、3つの市内文化施設において、現代アート作品の展示のほか、市内福祉作業所等と連携したオンラインワークショップ、作品に触れて楽しむ鑑賞サポートなど、美術鑑賞へのアクセシビリティを高める取組を行いました。



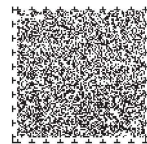
### パラ劇場研修

(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、職員育成の取組として、文化施設のバリアフリー事例の研究や、障害当事者の参加の下、音声ガイド・集団補聴・同行支援等の鑑賞サポートを行う映画上映会の実施、障害のある人が出演者となる場合を想定した舞台の上演などを行う「パラ劇場研修」を実施しています。

### そのほか、市内のさまざまな団体に ご協力いただいています

東京2020大会開催に向けて、調布中央商店会の街路灯20本をロゴ・アートデザイン等で装飾しました。商店会の方からは、「道路が明るくなったね」とのお声をいただきました。

調布駅前商店街・調布駅から盛り上げる会では、トートバッグを制作いただき、「調布・巡る・アートプロジェクト」の「スマホで巡るスタンプラリー」の一部店舗で販売されました。

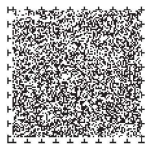


パラリンピック期間中に、市内で開催された車いすバスケットボールの競技の魅力や見どころ、パラリンピックに出場する調布市応援アスリートへの応援メッセージなどをオンライン配信しました。あわせて、「アート×共生社会」をテーマに、調布ゆかりのサンドアーティストによる作品制作や、「調布よさこい」のパフォーマンスから、「多様性と調和」「共生社会の充実」に向けたアートの可能性を考える企画を配信しました。

サンドアート作品  
保坂俊彦氏「祈りの像」



配信動画はこちらからご覧いただけます。



おもな出演者 ※敬称略

- 上村 知佳 (車いすバスケットボール現役選手、パラリンピアン)
- 三宅 克己 (車いすバスケットボール元選手、パラリンピアン)
- 稲村 亜美 (タレント、スポーツキャスター)
- 保坂 俊彦 (調布ゆかりの世界的に活躍するサンドアーティスト)
- 平澤 和哉 (調布よさこい実行委員長)
- かんばら けんた (調布市在住の車椅子ダンサー)
- よさこいチーム「舞夢」

市では、東京2020大会を契機として、「パラハートちょうふ〜つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」をキャッチフレーズとして、さまざまな取組を進めてきました。これらは、一過性のものでなく、次代のまちづくりに継承させていくことが重要です。これまでの取組やレガシーを踏まえ、全ての人々が手を取り合って暮らせる共生社会の実現を目指し、多様な主体との連携を継続しながら、市のさまざまな分野での取組として発展させていきます。



## Interview.

東京2020パラリンピックの開会式にも出場した、市内在住の車椅子ダンサー「かんばらけんた」さんに共生社会の実現に向けたヒントを伺いました。

Profile.

車椅子ダンサー  
かんばらけんたさん

生まれつき「二分脊椎症」という障害がある。現在、システムエンジニアとして働きつつ、フリーで車椅子ダンサーとして活動。車椅子の上での逆立ちなど、上半身を最大限に生かしたダンスが特徴。2016年のリオパラリンピック開会式、2021年の東京パラリンピック開会式に出演。

**Q.** 普段の生活の中で障害のある人もない人もお互いを尊重するために、どのような事を考えればいいと思いますか？

**A.** 障害のある・なしに関わらず、困っている方がいたら気軽に助け、自分が困った時には「助けて欲しい」と声を出せる社会になるといいなと思います。私は、外国人や困っていそうな方がいると「何かお手伝いは必要ですか？」と声を掛けるようにしています。声をかけるのは勇気が必要ですが、一人一人ができる範囲から変わっていくと信じています。

